



◆2020年(令和3年)1月20日発行 ◆Vol.42

故きを温ねて、新しきを知る  
～葵学園のあしあと～

## 音更町・私立緑陽台保育園のスタート

学校法人帯広葵学園

理事長 上野敏郎

平成26年6月、音更町は町立緑陽台保育園を民営化すると決め運営団体を募集していた。帯広葵学園は、これまでも「幼稚園制度」から「認定こども園制度」への移行を決めていた時期でもあり、迷わずその運営に手をあげることを決めた。そして、さっそく必要な手続きを進めたのである。審査の結果は、運営団体の許可は帯広葵学園に下りたのであった。

平成27年4月、旧町立緑陽台保育園の園舎をそのまま活用する形で学校法人立の緑陽台保育園がスタート。定員は120人だったが101人の船出であった。

帯広葵学園はアンパンマン幼稚園とも言われている。「帯広の森幼稚園」「つつじが丘幼稚園」の園舎や通園バスには、アンパンマンはもちろんのこと、バイキンマン、メロンパンナちゃんなどの絵でいっぱいなのである。

そこで、この特色を大事にしたいと考え緑陽台保育園の玄関、北側の道路沿いにはアンパンマンの看板を掲げることにした。新しい「園章」つつじが丘幼稚園の元園長奥野淳一先生の協力を得て開園に間に合ったのである。

更には、それまで帯広葵学園では導入してこなかった「まなびや」コースも導入した。このコースは、アンパンマンの絵本や遊具を販売する東京の出版社「フレール」が力を入れていたものである。具体的には、小学校に入る前に必要な読み書きの基本を指導するプログラムだ。帯広葵学園は、このプログラムの企画段階から協力してきたのである。

また、緑陽台保育園は開所時から障がいを持つ子どもたちの保育に取り組んできている。この方針に沿い、より専門的なサポートをするための「あおいとりプラス緑陽台教室」を隣接する建物を借りてオープンさせることに決定。

このように、新しい試みも加味しながら帯広葵学園として初めての保育園運営に入ったのであった。しかし、幼稚園と保育園とは、その歴史や保育の内容に大きな違いもある。その違いを帯広葵学園が50年以上培ってきた知識と技術のすべてを出し切る意気込みでスタート時から今日まで来ている。

## 十勝毎日新聞

お出迎えは  
アンパンマン  
緑陽台保育園に看板  
【音更】学校法人帯広葵学園(上野敏郎理事長)が運営する町内の緑陽台保育園(木幡悦子園長、園児101人)の入り口に、アンパンマンをあしらった看板が設置された。

(平成27年4月9日 十勝毎日新聞)



帯広市内の帯広の森、つつじが丘両幼稚園を運営する同学園は、出版社のフレール館(東京)と契約し、1998年からアンパンマンを同学園のイメージキャラクターとして使用している。両幼稚園でもアンパンマンをあしらった遊具やバスを取り入れ、園児の人気を集めている。

緑陽台保育園では、新年を迎える前の3月に看板を設置。遊技場にはキャラクターを描いたフラッグを天井から下げ、アンパンマンが座ったベンチを導入するなど「アンパンマンワールド」が広がっている。

同保育園に通う小林莉央ちゃん(5)、太洋ちゃん(3)姉弟は「毎日来るのが楽しみ」と口をそろえ、木幡園長は「アンパンマンは小さい子にとって魅力ある存在。楽しんでもらえたら」と話している。

(川野遼介)